



---

# 決算説明資料

2018年3月期

---



証券コード

**5936**

2018年6月1日

東洋シャッター株式会社

**2018年3月期 決算概況 P 3**

経営環境	P4~6
決算概要	P7
収益性分析	P8~11
製品別売上明細・受注実績	P12~15
受注実績・受注残高推移	P16
メンテナンス事業の状況	P17
キャッシュ・フロー計算書	P18

**その他トピックス P 30**

独ハーマン社との取り組み	P31,32
注目度の高い最近の製品	P33

**参考資料 P 34**

東洋シャッターの概要	P35,36
------------	--------

**新中期経営計画について P 19**

中長期的な事業環境予測と対応方針	P20
新中期経営計画『BRUSH UP 3』	P21~25
連結業績推移・計画	P26
2019年3月期業績計画	P27
設備投資・減価償却費の見通し	P28
配当の状況	P29

# 2018年3月期 決算概況

---

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社

国内経営環境

国内経済は穏やかな回復基調



首都圏での旺盛な建設関連投資は進行するものの  
首都圏以外では弱含み



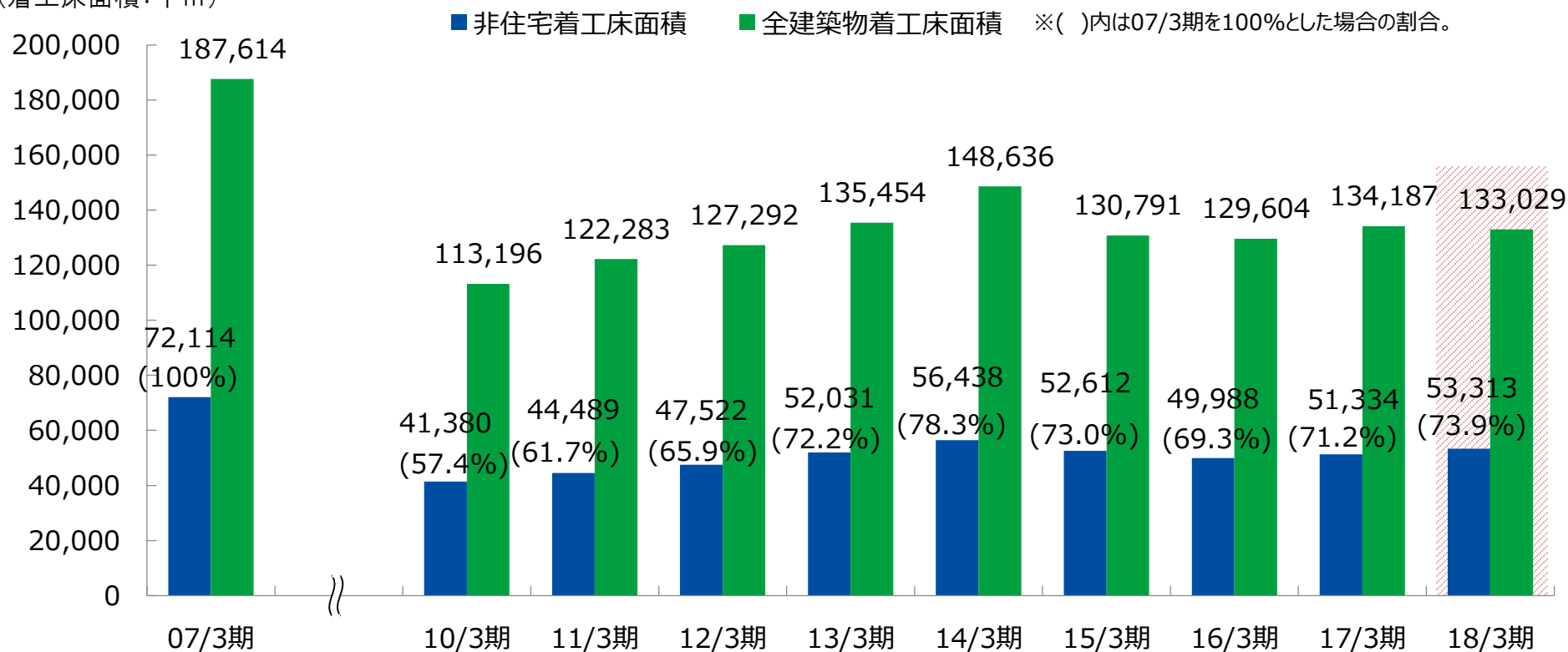
シャッター市場は低調に推移

シャッター・スチールドア市場は競争激化

## 非住宅着工床面積の推移

- 非住宅着工床面積は2年連続で増加するも依然、力強さに欠ける

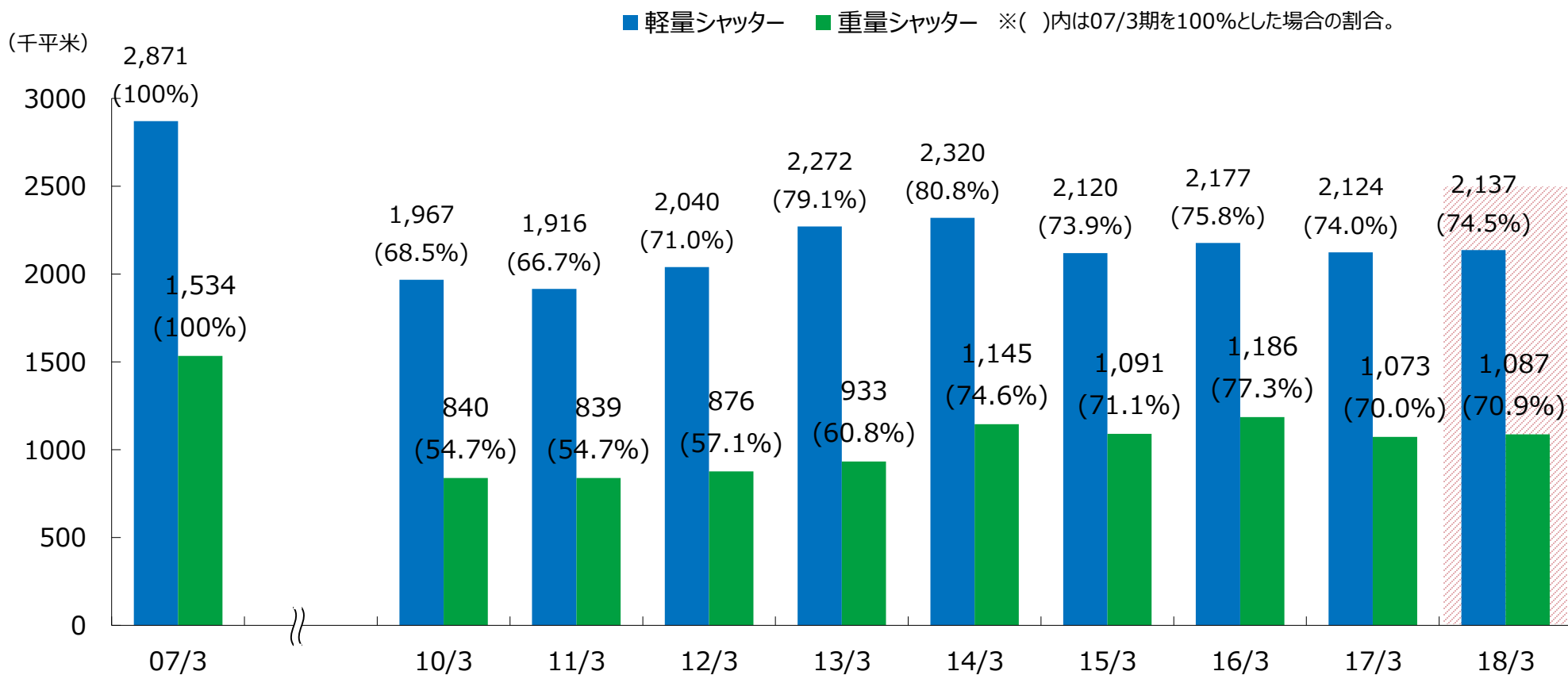
(着工床面積:千㎡)



(資料) 国土交通省、(財)建設経済研究所資料より推計

JSDA（日本シャッター・ドア協会）集計 生産数量推移

● 軽量シャッター、重量シャッターともに横ばいで推移



(資料)JSDA生産数量より推計

- ① 売上高 : 前年同期比6.9%増の190億4,300万円
- ② 営業利益 : 前年同期比23.6%減の5億7,800万円
- ③ 経常利益 : 前年同期比6.3%増の7億5,300万円
- ④ 親会社株主に帰属する当期純利益 : 前年同期比11.3%増の4億9,000万円

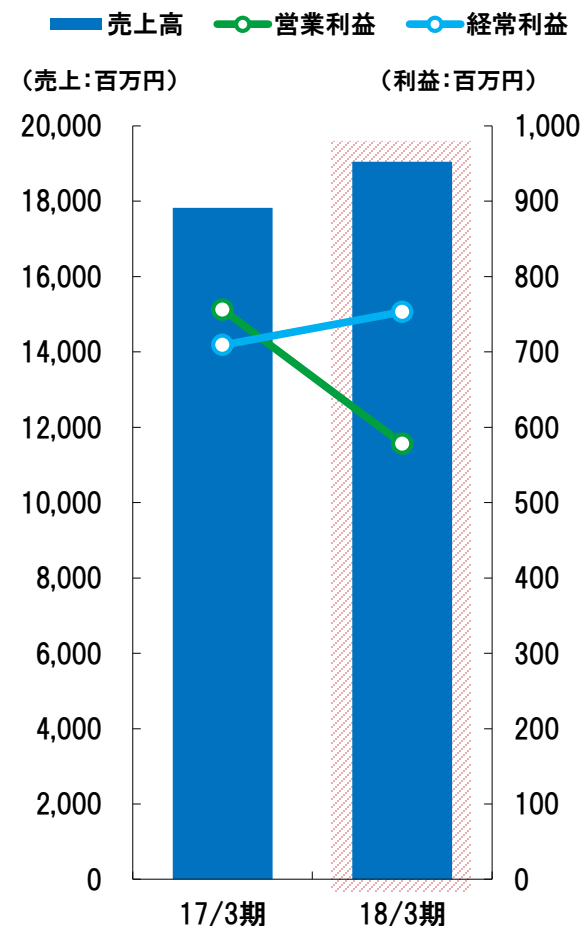
※2016年3月期第2四半期に計上いたしました「製品改修引当金」につきまして、改修工事の進捗に伴い、引当額を実績に基づいて再見積りを行った結果、従来の引当金額と差額が発生しましたので2億4,000万円を製品改修引当金戻入額として営業外収益に計上しております。

(百万円)	17/3期	18/3期		
		期初計画	修正計画	実績
売上高	17,820	19,000	19,000	<b>19,043</b>
営業利益	756	800	400	<b>578</b>
経常利益	709	700	330	<b>753</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	440	450	190	<b>490</b>

※修正計画は2017年10月20日リリースの数値となります

- 前期比で増収
- 受注競争の激化と鋼材価格の上昇により、売上総利益率が低下

(百万円)	17/3期	18/3期	前期比 増減率
売上高	17,820	19,043	6.9%
売上原価	13,115	14,268	8.8%
売上総利益	4,704	4,775	1.5%
売上総利益率	26.4%	25.1%	
販売管理費	3,947	4,197	6.3%
営業利益	756	578	△23.6%
営業利益率	4.2%	3.0%	
経常利益	709	753	6.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	440	490	11.3%
減価償却費	416	399	△4.1%





収益性改善の取り組み

**1 安定的な生産量の確保**

**2 「メンテサービス」の強化・拡大**

**3 採算管理の強化**

**4 業務効率化による少数精鋭体制確立**

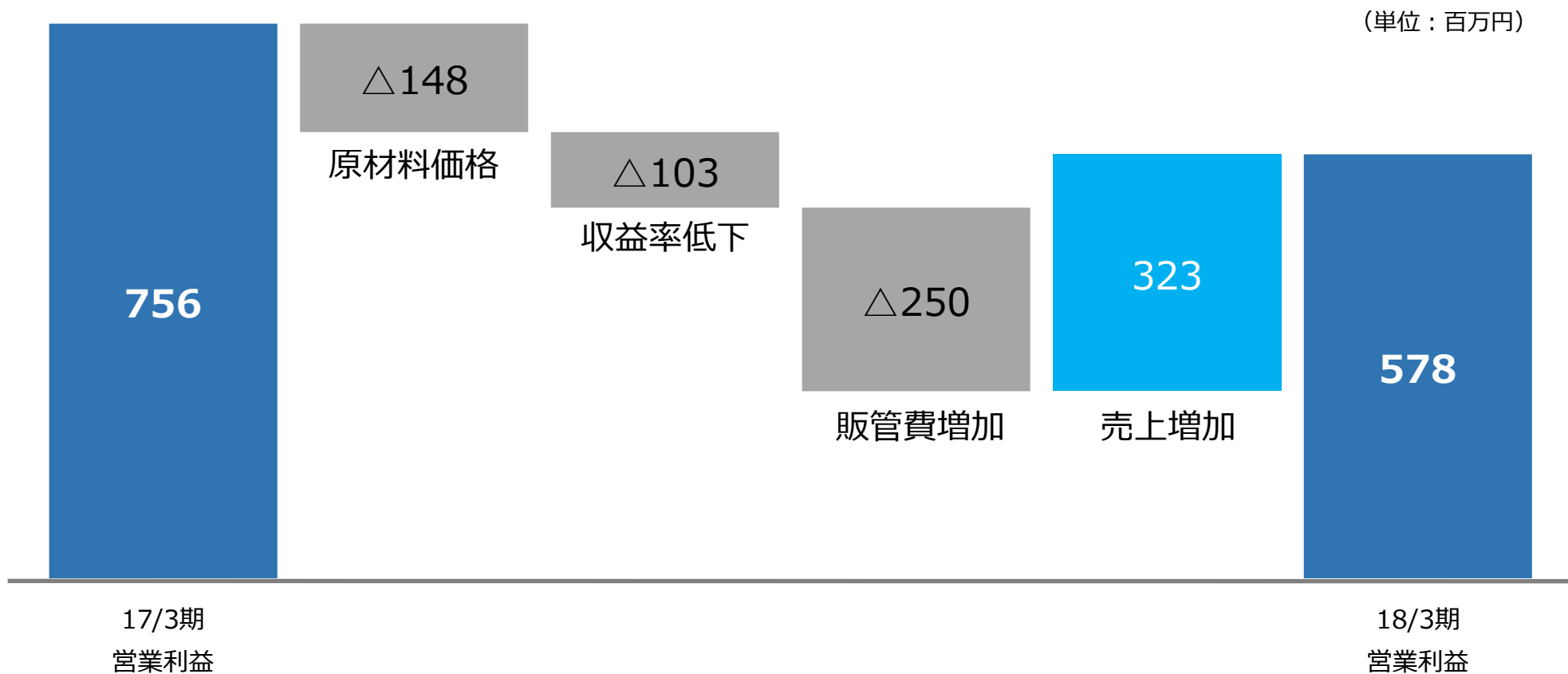
四半期ごとの売上高・営業利益の推移

- 上期は落ち込むが、下半期に小口案件の積極的受注等で盛り返す

(百万円)		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	累計
売上高	2013/3	3,828	4,229	4,433	5,033	17,524
	2014/3	4,078	4,470	4,472	5,822	18,842
	2015/3	3,966	4,701	4,583	5,557	18,807
	2016/3	4,315	4,528	4,688	5,009	18,540
	2017/3	3,762	4,314	4,427	5,317	17,820
	<b>2018/3</b>	<b>3,996</b>	<b>4,598</b>	<b>4,849</b>	<b>5,600</b>	<b>19,043</b>
営業利益	2013/3	97	164	185	276	722
	2014/3	197	226	249	558	1,230
	2015/3	157	463	371	467	1,458
	2016/3	161	310	337	358	1,166
	2017/3	14	234	219	289	756
	<b>2018/3</b>	<b>16</b>	<b>148</b>	<b>205</b>	<b>209</b>	<b>578</b>

営業利益増減要因

- 想定以上の原材料価格の上昇、販管費の増加により営業減益

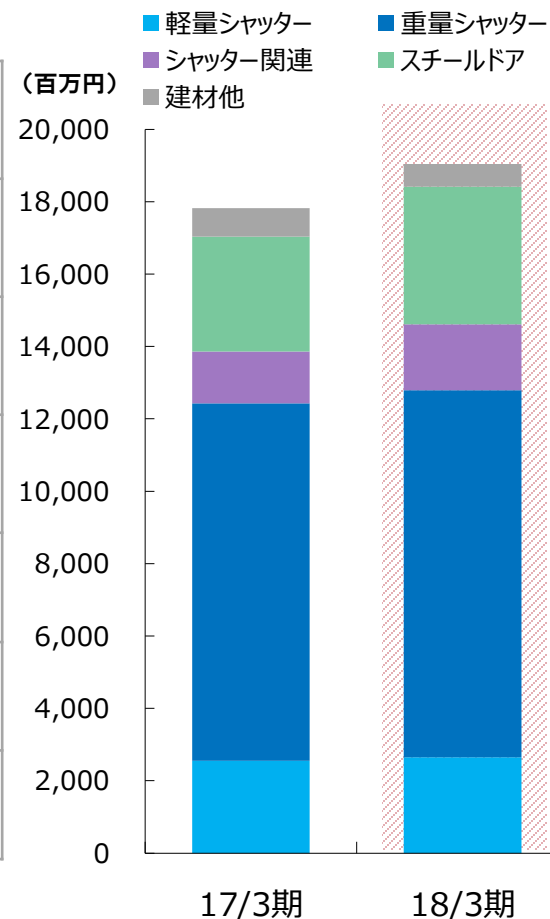


全製品別売上実績

- シャッター関連、スチールドアの増加により全体は6.9%増

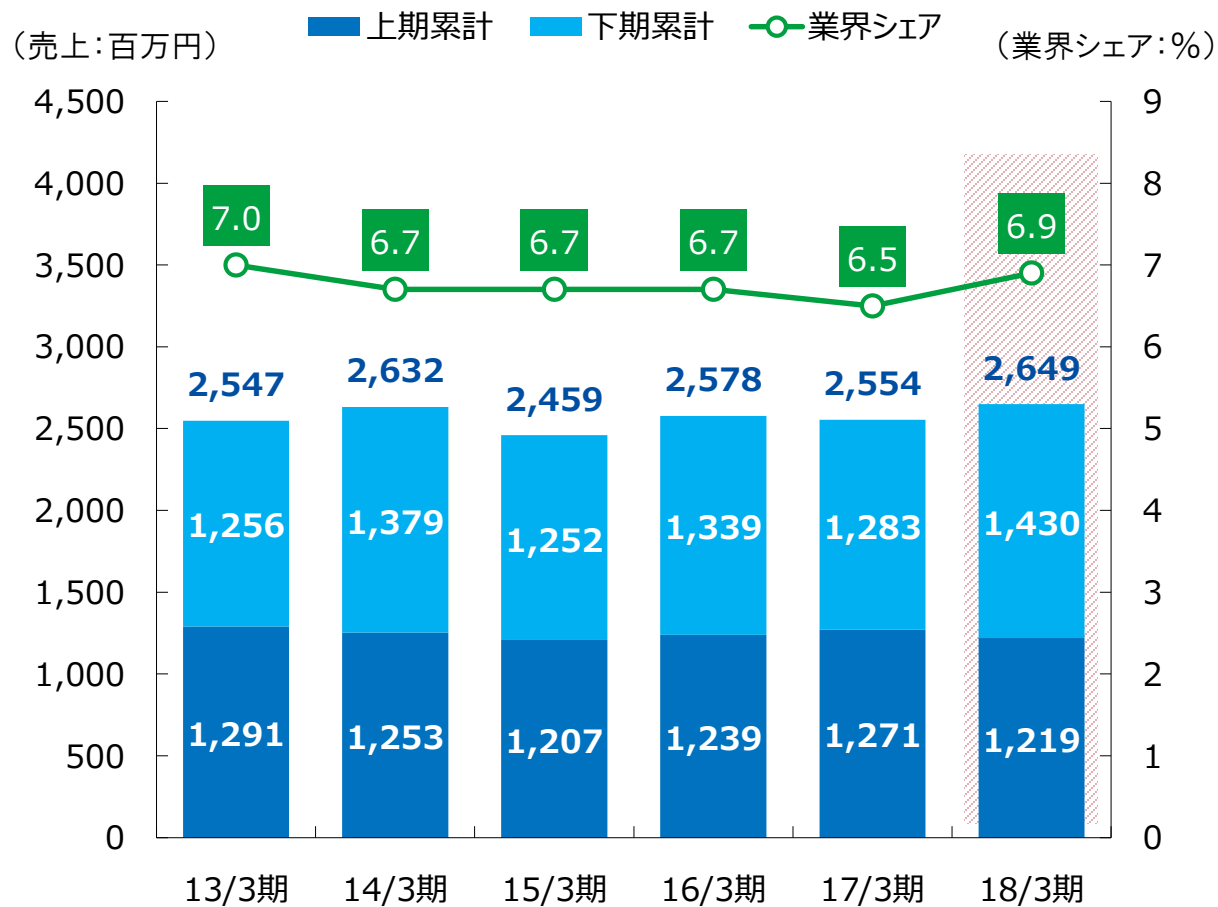
(単位:百万円)

(百万円)	17/3期	構成比	18/3期	構成比	前期比 増減率
軽量シャッター	2,554	14.3%	<b>2,648</b>	<b>13.9%</b>	3.7%
重量シャッター	9,878	55.5%	<b>10,139</b>	<b>53.3%</b>	2.6%
シャッター関連	1,427	8.0%	<b>1,829</b>	<b>9.6%</b>	28.2%
スチールドア	3,176	17.8%	<b>3,798</b>	<b>19.9%</b>	19.6%
建 材 他	783	4.4%	<b>626</b>	<b>3.3%</b>	△20.0%
合 計	17,820	100%	<b>19,043</b>	<b>100%</b>	6.9%



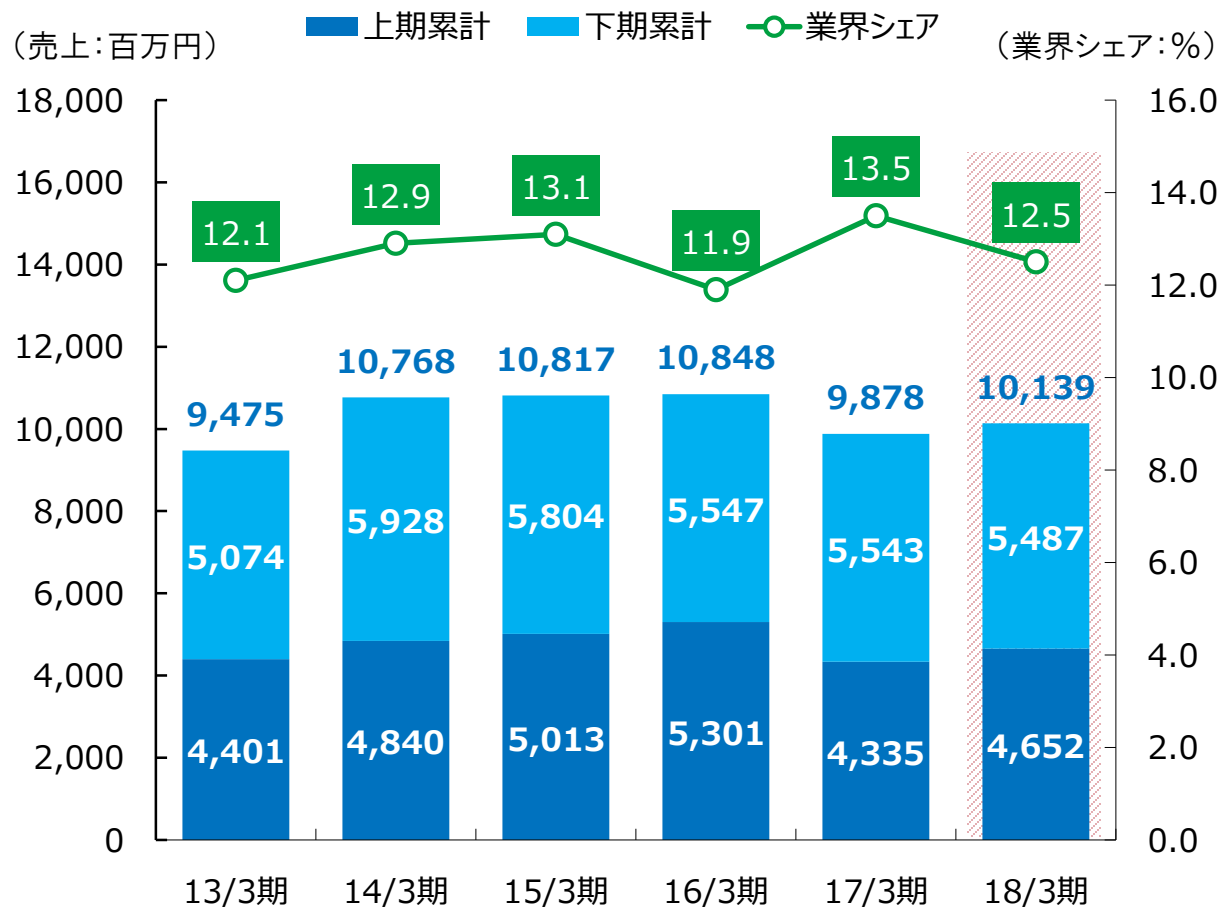
軽量シャッター

- 売上高は微増
- 下半期が堅調に推移



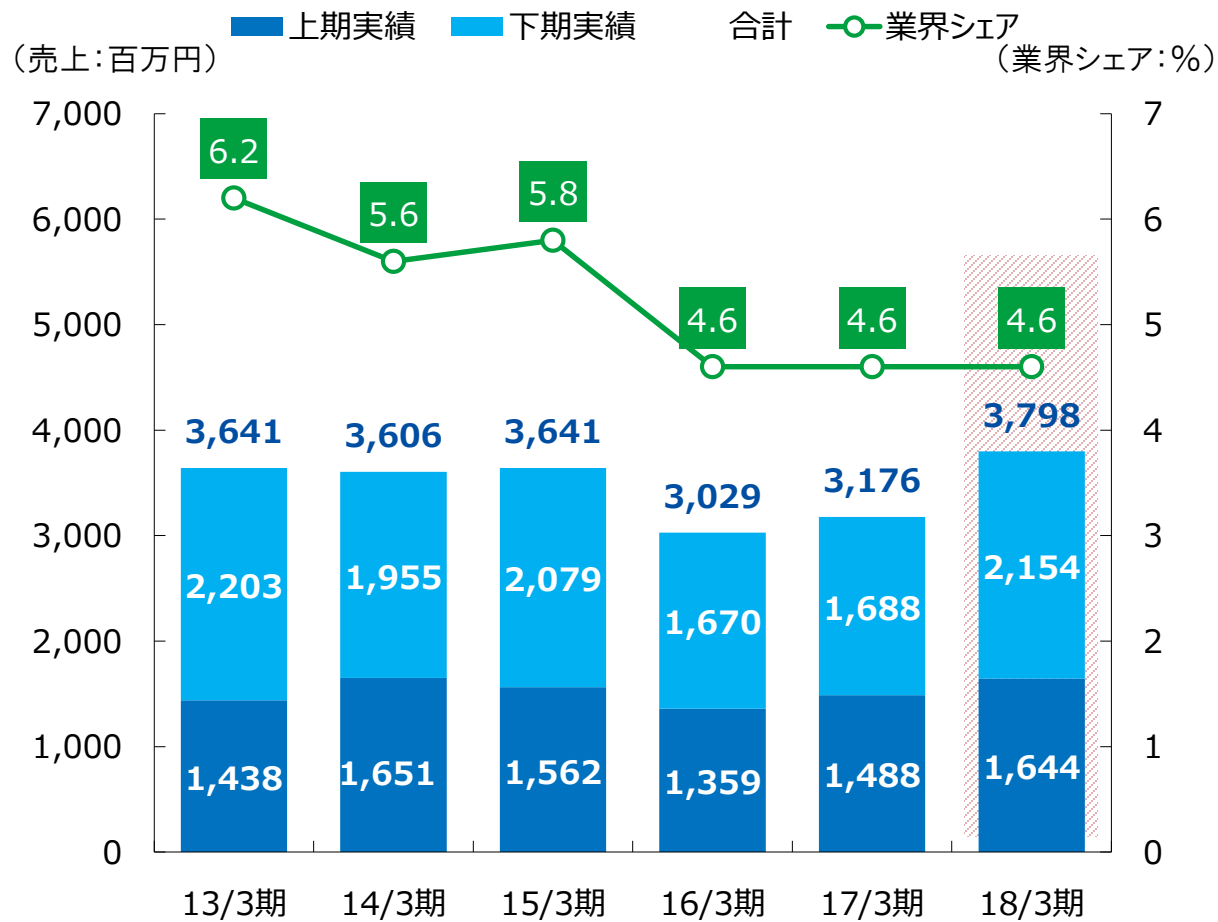
重量シャッター

- 受注残の消化で売上高は上昇
- 業界シェアは減少

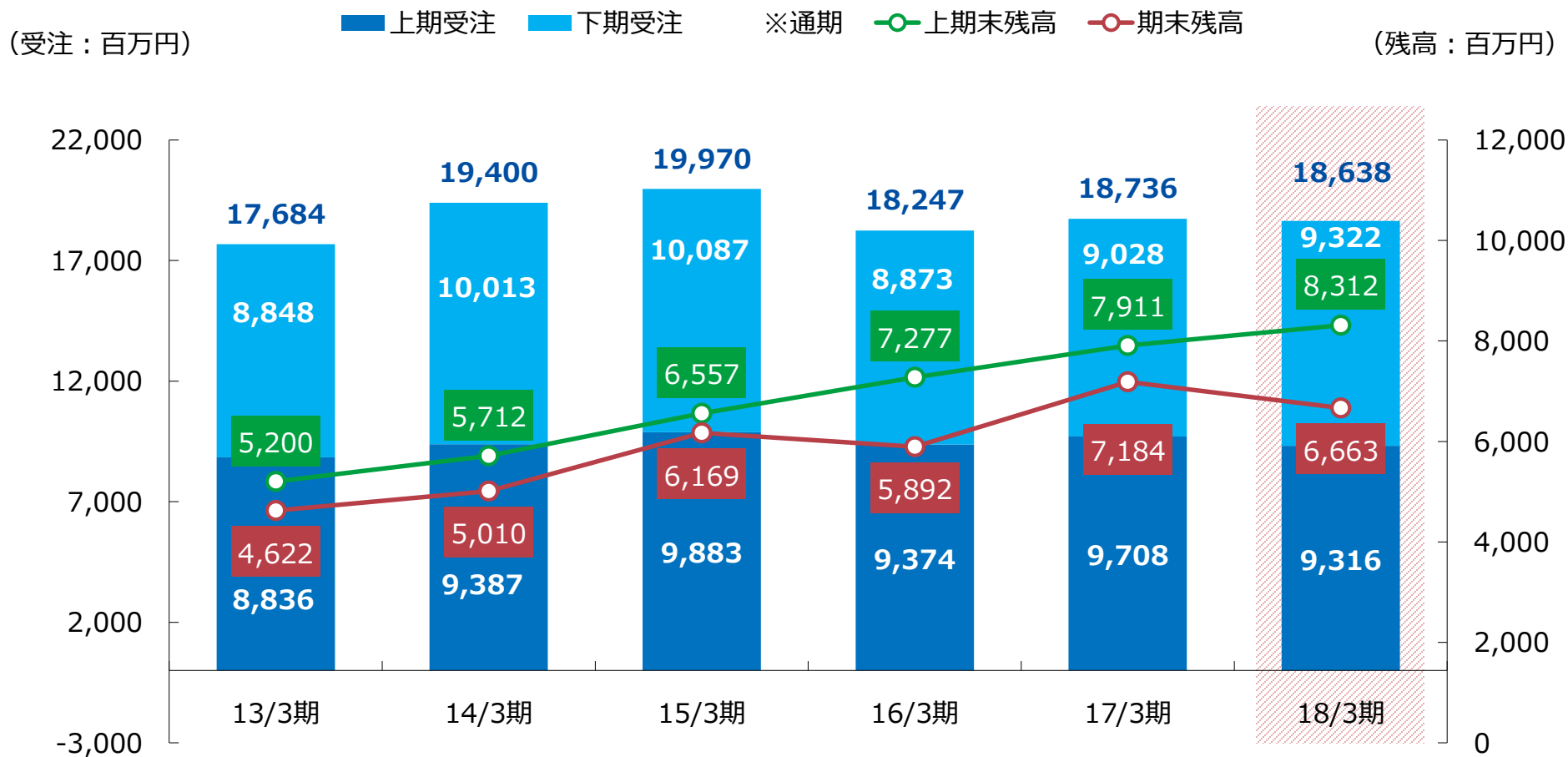


スチールドア

● 大型案件の竣工が重なり順調に推移

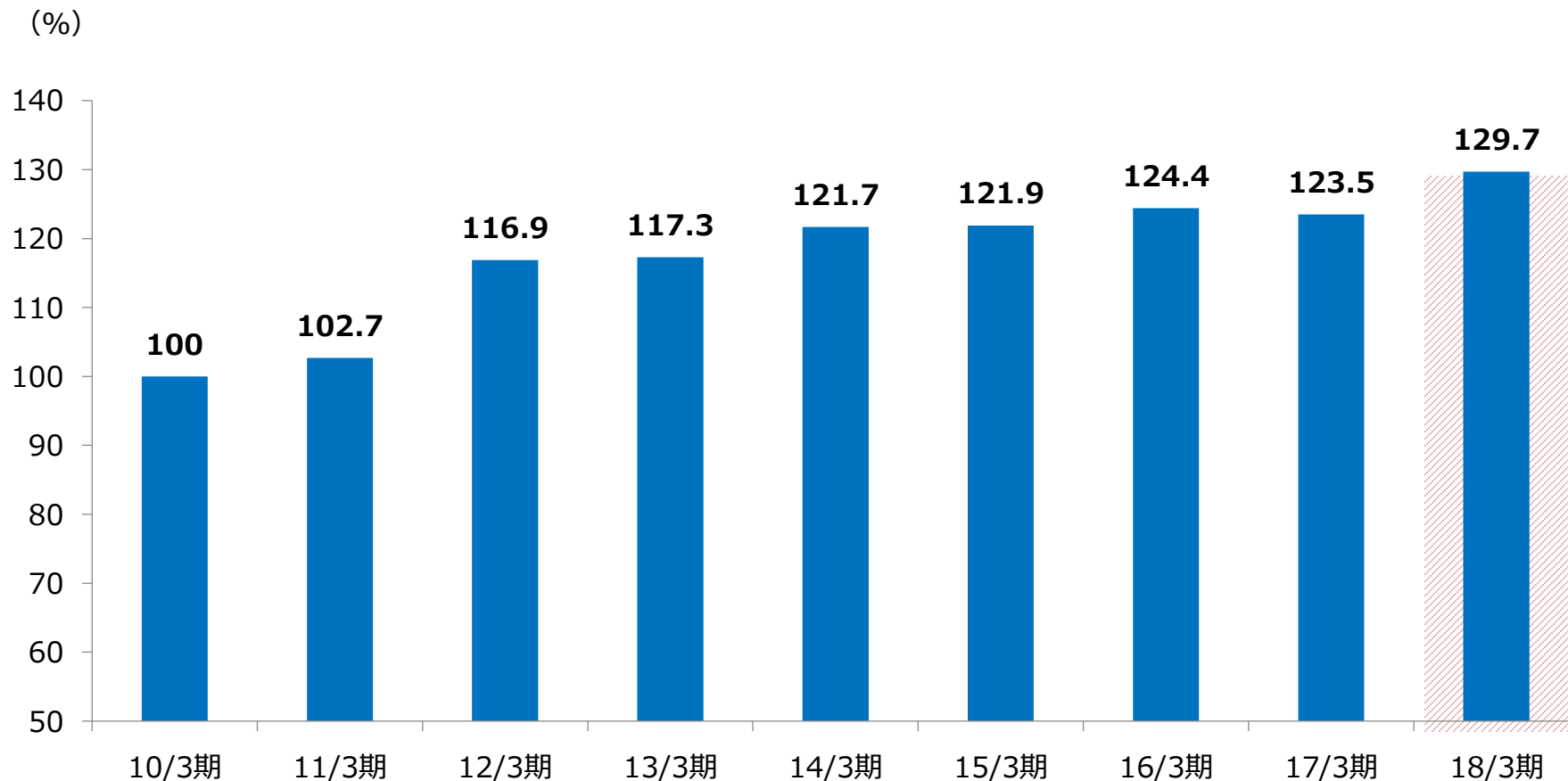


● 受注額の減少等によって期末受注残高は前期比で減少





● 防火設備の定期検査報告制度化の影響もあり、堅調に推移



\* 10/3期を100とした場合の売上高の推移。

キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動 C F : 仕入債務の増加によるもの
- 投資活動 C F : 大きな変動なし
- 財務活動 C F : 長期借入金の返済によるもの

(百万円)	17/3期	18/3期
期首現金・現金同等物残高	971	1,079
営業活動によるキャッシュ・フロー	773	1,058
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34	△39
フリーキャッシュ・フロー	739	1,019
財務活動によるキャッシュ・フロー	△631	△427
期末現金・現金同等物残高	1,079	1,671



# 新中期経営計画「BRUSH UP 3」について

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社

非住宅着工床面積は緩やかな回復基調ながらも軟調に推移

五輪効果・再開発により東京への一極化が引き続き進行

当社主要基盤である関西圏はようやく底打ち感はあるものの予断を許さない

### 事業基盤の確立

営業活動による受注確保・販売拡大を展開  
受注案件の一層の採算管理強化を行う  
段階的投資による業務全般の効率化の推進を図る

中期経営計画期間 連結業績予想

- 事業基盤を確立し、堅実な発展を目指す

(百万円)	19/3期	構成比	20/3期	構成比	21/3期	構成比
売上高	19,000	—	19,500	—	20,000	—
営業利益	600	3.2%	700	3.6%	800	4.0%
経常利益	500	2.6%	600	3.1%	700	3.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	300	1.6%	400	2.1%	450	2.3%

中期経営計画



**BRUSH UP 3**  
—磨き上げよう企業品質—

**行動力・スピード・稼ぐ力**

▶ 経営理念 ◀  
私たちは企業品質の向上を目指し、安全・安心・快適・感動を提供するとともに  
社会の進歩発展に貢献します。

▶ 経営ビジョン ◀  
【方 向 性】 環境に応じたスタイルを追求し、行動力・スピード・稼ぐ力を全員で磨きます。  
【主 力 事 業】 商品開発・ものづくり改革に挑み、主力事業の完成度を高め、お客様との絆を深めます。  
【新分野へ挑戦】 新たな出会いや新しい分野への挑戦を目指し、次世代に繋がる収益基盤を構築します。  
【個々の責任】 社員と共に働く人々は日々成長を志し、新しい自分と出会うよう自己研鑽に励みます。

▶ キーワード ◀  
強い会社、強い組織、強い社員

TOYOShutter

企業品質の向上を目指し、  
安全・安心・快適・感動を  
提供し続けると共に、

社会の進歩発展に  
貢献することを目標とし、

全社一丸となって  
新しい中期経営計画を推進。

1

環境に応じたスタイルを追求し、  
行動力・スピード・稼ぐ力を全員で磨く。

2

商品開発・ものづくり改革に挑み、  
主力事業の完成度を高め、お客様との絆を深める。

3

新たな出会いや新しい分野への挑戦を目指し、  
次世代に繋がる収益基盤を構築する。

4

社員や共に働く人々は日々成長を志し、  
新しい自分と出会えるよう自己研鑽に励む。



## 経営

コーポレートガバナンスを一層強化し、更なる内部統制の充実と意思伝達の迅速化を図る。

## 売上 増強

主力事業での売上増強策として、ラインナップの充実、既存販売網で拡販出来る商品開拓を行う。

## 収益力 強化

受注案件の採算管理を一層推し進め、稼ぐ力を磨くとともに、全社コストと時間管理の見直しにより収益力強化を図る。

## ストック 対策

メンテナンス事業は構築してきた基盤での保守点検契約の獲得に向けた動きを行う。





## 投資

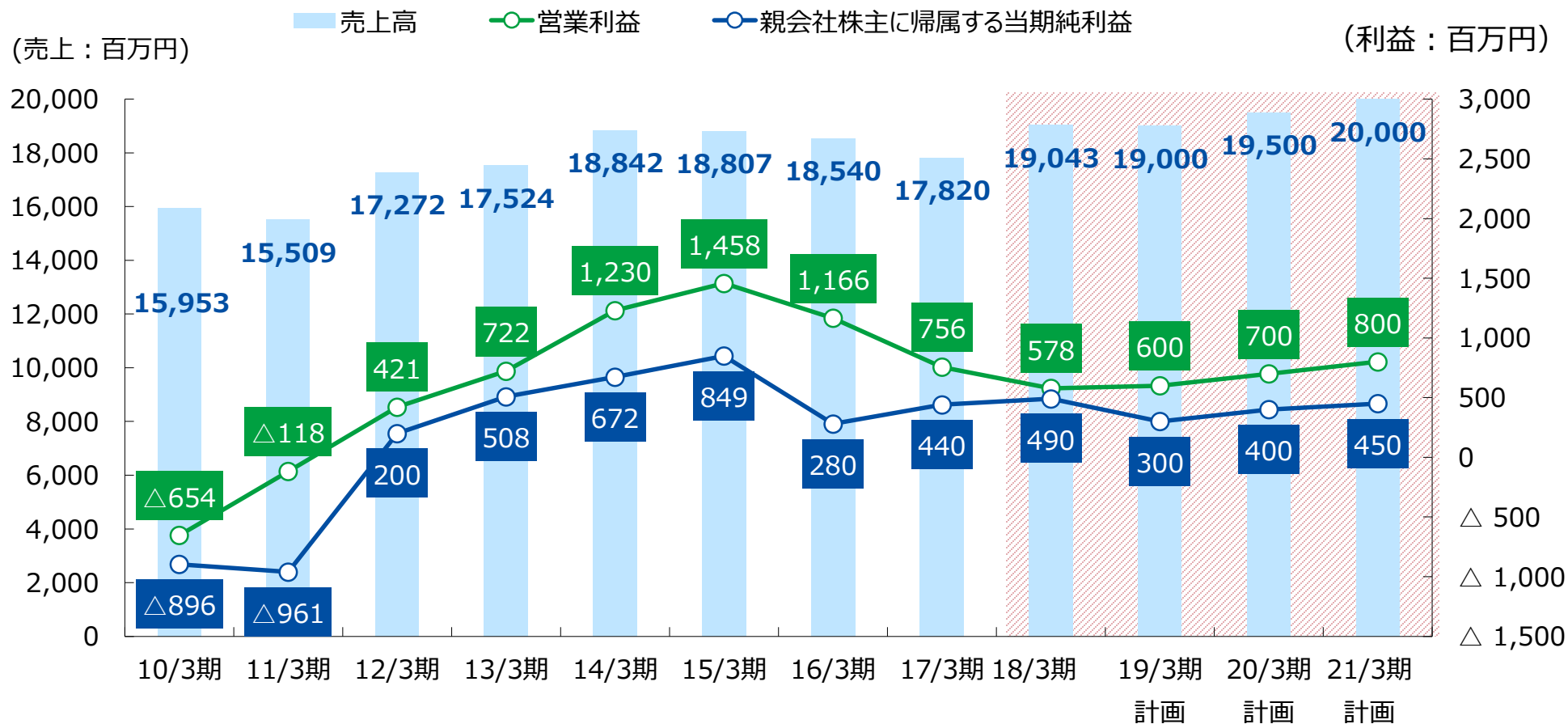
自動化、省力化、効率化、多能化を実現するため、段階的投資を行い、生産体制と設計施工体制の強化に努める

## 人材育成

人員の、適材適所の配置と最大パフォーマンスの発揮が出来る、個別の職務開発の実施、社員一人ひとりの成長に向けた自己研鑽に励む風土を醸成する

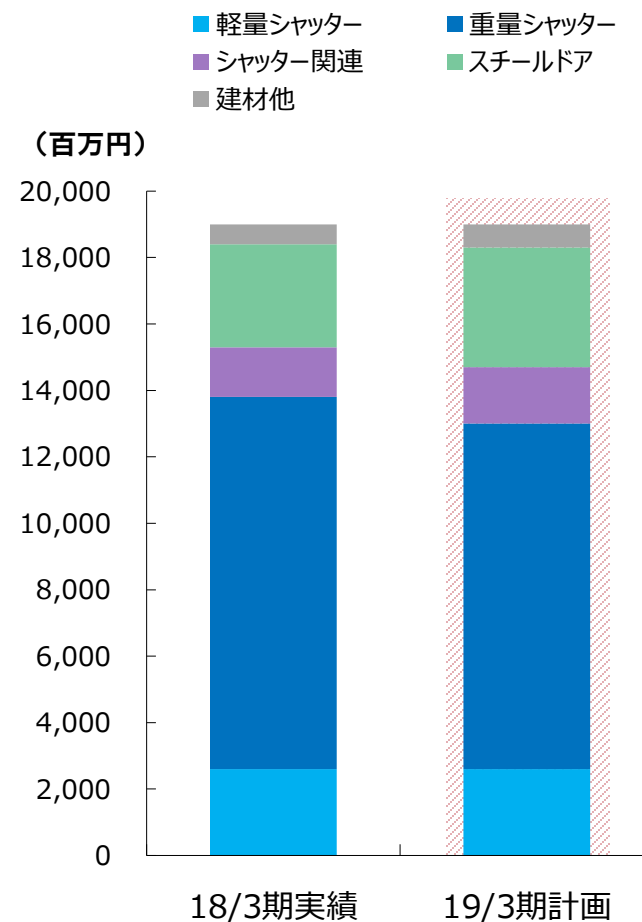
## 配当方針

効率化改革に資する設備投資や研究開発費に必要な内部留保の確保、財務状況や業績等を勘案しながら、株主の皆様へ安定的な配当を目指す。

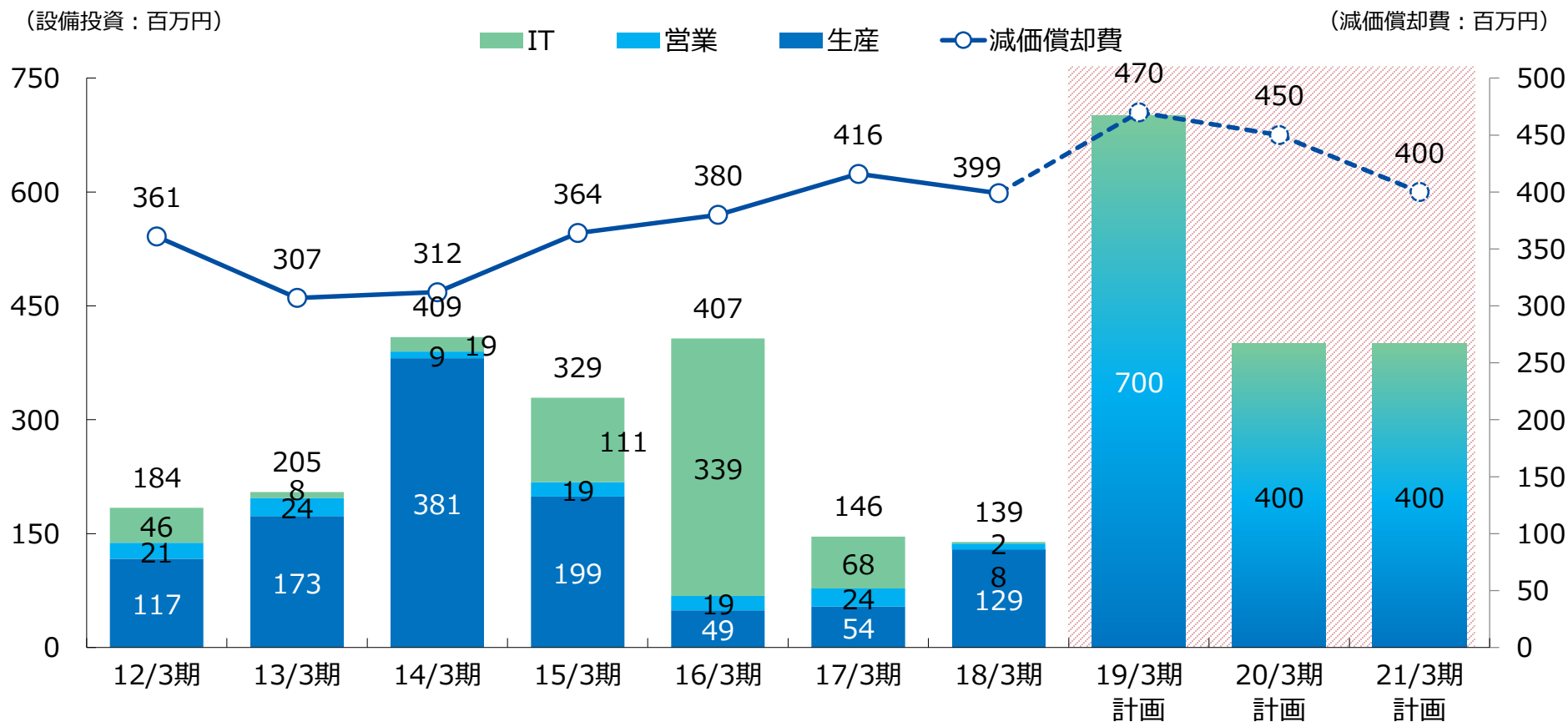


● 前期末受注残高は減少も、営業活動・採算管理を強化し増益を図る

百万円	18/3期 実績	19/3期 計画	前期比 増減率
売上高	19,043	19,000	△0.2%
軽量シャッター	2,648	2,650	2.0%
重量シャッター	10,139	10,300	1.1%
シャッター関連	1,829	1,820	△0.5%
スチールドア	3,798	3,600	△5.2%
建材他	626	630	0.6%
営業利益	578	600	3.8%
営業利益率	3.0%	3.2%	—
経常利益	753	500	△33.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	490	300	△38.8%

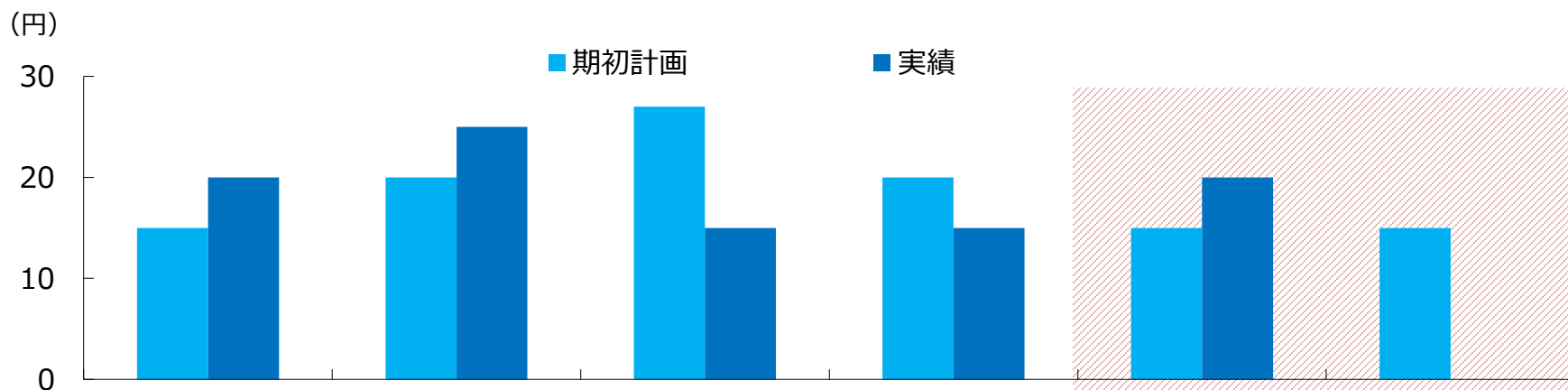


- 2019年3月期はシステム投資等の前期投資分の期ずれ
- 生産設備を中心に継続的な4億円程度の投資を計画



※投資にはリースの実行額を含んでおります。

● 財務状況や業績等を勘案し、安定的な配当を目指す

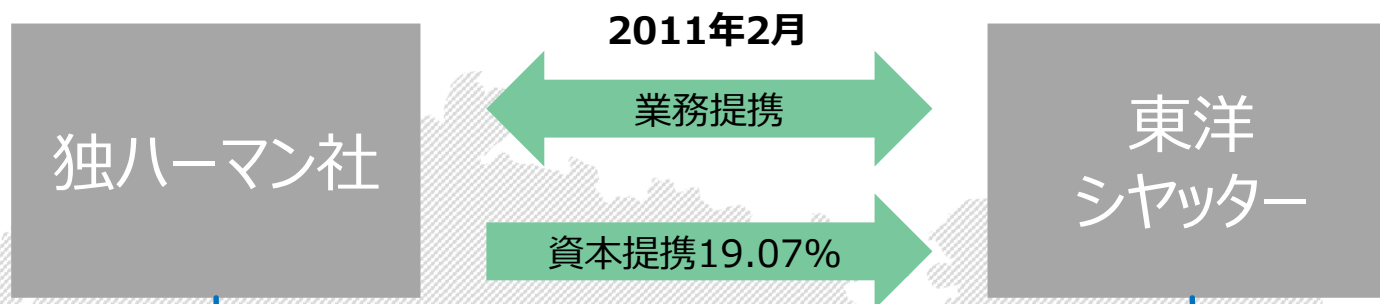


	14/3期		15/3期		16/3期		17/3期		18/3期		19/3期
	期初計画	実績	期初計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画
通期配当金	15円	20円	20円	25円	27円	15円	20円	15円	<b>15円</b>	<b>20円</b>	<b>15円</b>
配当性向	22.9%	20.2%	19.3%	19.9%	20.3%	33.9%	20.5%	21.6%	<b>19.4%</b>	<b>25.9%</b>	<b>31.7%</b>

# その他トピックス

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社



### 継続的拡大を目指して長期的な取り組みを推進

- ◆ 2011年8月より高速シートシャッター販売開始
- ◆ 2014年9月よりハイスピードシャッター販売開始
- ◆ 2018年4月より高速シートシャッターコンパクトタイプ国内生産開始

## 高速シートシャッター

工場や倉庫の頻繁な搬入出作業に高速スピード開閉で対応。



高速シートシャッター  
**シュネル M マイスター**

## ハイスピードシャッター

高速開閉と断熱パネルにより、省エネ効果を高めると共に安全性へも十分に配慮。



ハイスピードシャッター  
**シュネル K カイザー**



## 防音ドア (TSレバータイト)

当社オリジナルのマグネット入りゴムを用いることで、レバーハンドルでもPATドアと同等、またはそれ以上の遮音性能を確保。



## 止水ドア・水防板

簡単な操作で水害をシャットアウト。突然の浸水に早い対応が可能。



# 参考資料 (東洋シャッターの概要)

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社

商号	東洋シャッター株式会社
設立	1955年9月10日
資本金	20億2,421万円
株式上場	市場第1部（東京証券取引所）（No.5936）
本店所在地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代表者	代表取締役社長 岡田 敏夫
従業員数	547名（2018年3月末連結）
事業所	2本社、9支店、1営業部、50営業所・メンテナンスセンター その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場
子会社	南東洋シャッター株式会社

1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年 7月	大阪市中心区南船場に本社移転
2009年 2月	中期3ヵ年計画「Fusion Plan 3」を策定
2011年 2月	独ハーマン社と資本・業務提携契約締結
2012年 5月	中期3ヵ年計画「JUMP UP 3」を策定
2015年 5月	中期3ヵ年計画「POWER UP 3」を策定
2018年 5月	中期3ヵ年計画「BRUSH UP 3」を策定

この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。

実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2018年6月